

南小学校 第3・4学年体育科学習指導案

日時：26年11月26日（水）第5校時

対象：第3学年7名・第4学年14名 計21名

指導者：

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 単元について

(1) 運動の特性

跳び箱運動は、助走や踏み切りによって空間に跳躍し、跳び箱上に着手して飛び越して着地するまでを一連の動きとした非日常性の独特の運動である。そして、より高く、より大きく跳び箱を跳び越したり回転したりし、いろいろな技ができるようになることが楽しく、達成する喜びを味わうことができる運動である。しかし、できる・できないがはっきりしている運動なので、できないときは意欲が低下してしまうこともある。そこで、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、易しい場や条件のもとで段階的に取り組む工夫をしたりすることが大切である。また、技や動きの系統性を持った運動なので、導入の段階で基礎となる感覚を段階的に習得できる運動を取り入れることが有効である。

(2) 児童観

3・4年生は、休み時間には運動場で主にドッジボールをして遊んでいる。特に男子は朝早くから来て体を動かしている。1学期のマット運動では、マット運動をすることが分かった時点で、「できん。」と連呼する児童がいる反面、軽い身のこなしをする児童もいて、できる技についての個人差が大きく、前転や後転の練習に終始した。4月の体育のアンケートでは、運動・スポーツ得意意識の低い子どもが体育を楽しんでいると感じていなかった。いろいろな動きをつくる運動では、振り返りカードで一人ひとりの達成感や要望、個々の技能を知り、次時には、みんなが協力し楽しく技を向上させることができるように指導を工夫してきた。

跳び箱運動は、多くの子どもが好きであり、馬跳びもできるようになった、しかし、着手が弱く、強い踏み切りや腰の上がった跳び方にまではなっていない。前転は多くの児童ができていますが、腕支持や回転する力が弱く途中でつぶれてしまったりする児童もいる。

より高い目標を持って取り組む児童、運動は苦手ではあるが、自宅で練習をしたり、跳びっこ遊びや馬跳びが楽しいと言ったりする児童がいる。技術の差はあっても、どの児童もチャレンジし、できるようになる喜びを感じているようである。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず、跳び箱運動の基礎的な技能や投げ出し感覚、腕支持感覚、逆さ感覚、踏み切り感覚を養う運動を楽しみながら数多く経験させる。そのために単元を通して授業の前半にうさぎ跳びや馬跳びや足打ち、跳び乗りなどに取り組んでいきたい。また、技の動画を見せ、うまく飛ぶコツをつかませた上で、技のポイントを書いた学習カードでめあてを確認して、練習に取り組ませたい。自分の体の動きは見えないので、友達と見合い教え合って取り組ませることにより一緒に上手になっていく心地良さも味わわせたい。そして、どの児童もチャレンジしていく時間になるよう、スモールステップで場の工夫をしていきたい。また、今まで同様3人の指導体制で、個にあった指導や技能を高める方法を話し合いながら進めていきたい。

3 キャリア教育に関する観点

キャリア教育の視点である意思決定能力の中の選択能力を高める工夫をさせていきたい。この能力を高める為には、自分のよさに気づくことが大切である。自分のよさに気づき、自分への信頼を深めていくことができれば、自分で道を切り開いていく自信ができるからである。本単元では、学習カードに自分の頑張りや友達の良さを記入し発見することにより、自他共に自己肯定感が高まるようにしていきたい。また、動画や学習カードでつかんだポイントを理解し、自分の力に応じた場を選択し練習することもキャリア能力の育成につながると考える。

4 単元の目標

○教科の指導目標

- ・跳び箱運動に進んで取り組み、決まりを守り仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気をつけたりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・自己の能力に適した課題を持ち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。(思考・判断)
- ・基本的な支持跳び越し技(開脚跳び・台上前転)ができるようにする。(技能)

○キャリア教育視点での目標

- ・友達の良いところを見つけ、相手を尊重することができる。【人間関係形成・社会形成】
- ・主体的に判断し、自分のやりたいことや良いと思うことに進んで取り組むことができる。

【課題対応能力】

5 単元の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
単 元 の 評 価 規 準	器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲良く運動をしようとしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、技ができるようにするための運動の行い方を工夫している。	器械運動の基本的な技を身に付けている。
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	① 友達と協力して跳び箱や踏み切り板などの準備や後片付けをしようとしている。 ② 今できる技を友達と励まし合って取り組もうとしている。 ③運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。	①学習カードを活用し、自分の力にあった練習方法や練習の場を選んでいる。 ②技のポイントを考え、めあてを持って練習し、ポイントを友達にもアドバイスができています。	① 定した動作で、支持飛び越し技ができる。 ② 分の力に合った場で、新しい技に挑戦することができる。

6 指導と評価の計画（全6時間）

	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
1	1 オリエンテーション 学習の進め方を知り、学習の見通しを持つ。 ・学習の進め方を知る。 ・安全についての約束やマナーについて確認する。 ・準備の仕方を知る。 2 今できる技の確認 3 振り返り 4 後片付け・整理運動 5 あいさつ	① 友達と協力して跳び箱や踏み切り板など準備後片付けをしようとしている。（観察）		
2	1 あいさつ・用具や場の準備 2 準備運動 3 学習課題の確認 開脚跳びのポイントを理解し、友達と教え合いながら技能を高める。 ・助走 ・踏み切り ・着手 ・着地		①学習カードを活用し、自分に適した練習の場を選んでいる。（観察、学習カード）	
3	4 練習 ・めあてを持って選択した場で個人練習。 ・友達同士でアドバイスし合いながら練習する。 5 振り返り 6 後片付け・整理運動 7 あいさつ			①安定した動作で、支持飛びが越しができている。（観察）
4	1 あいさつ・用具や場の準備 2 準備運動 3 学習課題の確認 台上前転のポイントを理解し、友達と教え合いながら技能を高める。 ・助走 ・踏み切り	② 今できる技を友達と励まし合って取り組もうとしている。（観察）		

5 本時	・着手 ・回転 ・着地 4 練習 ・めあてを持って選択した場で個人練習。 ・友達同士でアドバイスし合いながら練習する。 5 振り返り 6 後片付け・整理運動 7 あいさつ		②技のポイントを考え、めあてを持って練習し、友達にもポイントがアドバイスができています。 (観察、学習カード)	
6	1 あいさつ・用具や場の準備 2 準備運動 3 学習課題の確認 発表会をしよう 4 練習 ・めあてを持って選択した場で個人練習。 5 技の発表 6 まとめ 7 後片付け・整理運動 8 あいさつ	③運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。		②自分の力に合った場で、新しい技に挑戦しようとしている。 (観察)

7 本時の学習（5／6）

（1）本時の目標

○教科の目標

- ・台上前転のポイントを考えて練習することができる。

○キャリア教育視点での目標

- ★友達の良いところを見つけられる。

（2）本時の評価規準

技のポイントをつかみ、めあてを持って練習し、友達の良いところを見つけることができています。

（3）準備物

学習カード、拡大したポイントカード、跳び箱、マット、踏み切り板、プロジェクター、パソコン

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ・教科の留意事項 ○キャリア教育視点での留意事項	評価規準・ 評価方法 ○教科 ★キャリア教育
導入 1 0 分	1 用具や場の準備 2 準備運動	・協力して安全に準備できるように、声掛けする。 ・各部の曲げ伸ばし等を意識して運動するように、言葉がけをする。 ・手で体を支える動きなどを取り入れ、跳び箱運動につなげる。	
展開 2 5 分	3 学習課題の確認 技のポイントを考えて練習し、台上前転の達人になろう。 ・助走、踏み切り、着手、回転、着地 4 練習 ・めあてを持って選択した場で個人練習。 ・友達同士でアドバイスし合いながら練習する。	・技能のポイントを分かりやすく提示しておく。 (両足をそろえて強く踏み切る。腰を高く上げる。跳び箱の手前に手をつく。あごを引き背中を丸めて回る。ひざを曲げてピタリととまる。) ・怖さを感じる児童には、低くやわらかいものを使用した場を設定する。また、真っすぐ回り腕支持ができていることを確認しつつ、補助に入る。 ・自分に合った場が選べるように3コース準備しておく。(児童の実態により、補助者2名にするため、2コースにする。) ・ポイントがつかめていることや、意識できていなかったりしていることを声掛けする。 ・友達との声のかけ合い、教えあいの様子を賞賛する。	○技のポイントをつかみ、めあてを持って練習し、友達の良いところを見つけることができる。(観察)
まとめ 1 0 分	5 整理運動 6 振り返り 7 後片付け	・使った部位を良くほぐすように助言する。 ・○技のコツや友達のよさを見つけられた児童や、教え合いができた児童らを友達に広げる。 ・協力して安全に後片付けができるように、声掛けする。	★友達の良いところを見つけられている。 (学習カード)